（平成２９年３月１５日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成28年８月末	平成28年11月末	平成29年２月末見通し	平成29年５月末見通し
－６２千トン ［　２１８３〃　］ （９７．２%）	－４６千トン ［　２１３７〃　］ （９７．９%）	＋５３千トン ［　２１９０〃　］ （１０２．５%）	－６０千トン ［　２１３０　〃　］ （９７．３%）
２１７７千ﾄﾝ（99.7）	２１３９千ﾄﾝ（100.1）	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成28年９月末	平成28年１２月末	平成29年３月末見通し	平成29年６月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 70,100 円で前年比－6,000 円、前期比では－1,300 円。販売は前年並の実績であったが、市場には値上げ玉が入荷し始め、その転嫁が進まず、粗利を圧迫していた。需要は僅かだが増加傾向を見せているが、品種によって状況が異なり、一概に復調の兆しが見えてきたとは言い難い。在庫は減少し、歯抜けがでているが、市況押し上げの要因とはなっていなかった。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 72,000 円で前年比－900 円、前期比では＋1,900 円。原料高を背景にメーカーは大幅な値上げを数次に渡り実行。それに伴い仮需も発生した。需給は均衡化し、価格も品種で若干の差異はあったが上昇基調。在庫は稼働日数の関係もあり 12 月末には増加に転じた。多くの販売店は値上げのスピードに付いていけず、転嫁未達状態で越年し、先々の採算が憂慮された。	メーカー値上げに連動した仮需は１月帳破明け以降鎮静化した。荷動き、市況にも一服感が現れ、盛り上がりに欠く、市場動向となり、その基調で年度末まで推移している。値上げ転嫁も足元の需要不足が響き捗々しくない。大きな落ち込みは見られないものの値上がり玉に在庫が入れ替わりつつあるなか、販売量の確保と価格引き上げの両面で厳しい交渉に晒されている。未だ需要の足音が遠くに聞こえる状況での年度末である。	ＧＷ明け需要動向が節目になり、それが不発に終われば夏場にずれ込むというのが例年のパターンではある。基調として市況は強含み、在庫も大きくは増加せず、需要は少しずつ増えていくと思われ、状況悪化は考えにくい。課題となるのは値上げに対する転嫁である。メーカーは更なる値上げを指向しており、流通にとって息が抜けない局面が続くだろう。また、価格上昇時における信用不安にも注視していかなければならない。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

仮需一巡、小口当用買いの市場動向に戻っているが、メーカーの供給姿勢は変わりなく、引き受け削減、枠カットなど出荷抑制の方針を堅持している。流通は荷揃えに苦慮する場面もあるかもしれないが、需要が活発化しているわけでもないので必要以上の在庫は持たないだろう。よって、在庫積み増しができる状況でもなく、その意識も低いと思われる。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）。昨年１０月以降、メーカーの連続値上げにより、先高感から仮需、先行手配があったが、２月以降荷動きが落ち着いてきている。スクラップ価格の底堅い上伸基調を受けて、各メーカーの値上げ志向は強く、流通ももう一段の転嫁を進めなければならないものの、荷動きが低調なため、価格転嫁に苦戦している。

（愛知）自動車向け＋１４～１５円の支給単価の上昇が市況上昇の後押しとなるが、建材向けなどは一時的に弱気になった商品もあり、値上げの動向はまだら模様である。全般的に採算厳しく課題は価格転嫁に尽きる。